

教員養成の理念と構想

<大学>

岩手大学の教職課程は、21世紀の課題である持続可能な社会の発展に必要な幅広く深い知識と教養の基礎の上に、地域を含む学校現場の課題に応えつつ、確かな学力と思いやる心を育むための優れた専門知識と柔軟な実践指導力を備えた教員の養成を目指している。

<人文社会科学部>

【人間文化課程】

東日本大震災と人口減によって存続の危機を迎えている地域社会が求める人材像を踏まえ、地域文化の理解や取り組みを通して、1) 世界の多様な文化とのつながりや文化の相対性を理解し、2) さらに、地域社会の中で生活をしていく人間存在やその行動を、社会や文化との関わりの中で理解し、3) その結果として、地域住民の心身の健康の向上を促進し、地域社会の発展に貢献でき、地域の再生・活性化に資する教員の養成を目指す。

1、2年次は人文科学の基礎力に重点を置いた科目(課程共通科目)を履修させるとともに、教員としての基礎力を身につけるための教養教育科目を履修させる。2、3年次で、教科に関する一般的・包括的内容を含む科目及び各教科に関する科目を広く学ばせ、教職及び各教科に関する基礎学力を涵養する。3、4年次では、複数教員が一つのテーマについて講義を行い、複眼的視野を養う学部共通科目を必修にするとともに、特別研究で各教科科目に対するより深い知識を身につけさせる。

【地域政策課程】

震災復興に取り組む被災県において持続可能な社会づくりを進めるには、法・経済・環境の価値を同時に実現していくことが不可欠であり、地域マネジメント、地域創生を軸とした法学・経済学・環境学を統合した教育を行うことで、地域社会の課題に総合的に取り組み、地域社会に貢献できる「持続可能な社会づくり」の担い手となる教員の養成を目指す。

1、2年次は社会科学の基礎力に重点を置いた科目を履修するとともに、教員としての基礎力を身につけるための教養教育科目を履修させる。2、3年次で、教科に関する一般的・包括的内容を含む科目及び高校公民に関する科目を広く学ばせ、教職及び公民科に関する基礎学力を身につけさせる。3、4年次では、複数教員が一つのテーマについて講義を行い、複眼的視野を養う学部共通科目を必修にするとともに、特別研究で公民科科目に対する広がりや専門知識を身につけさせる。

<教育学部>

【教員の養成の目標】

子どもと学校を取り巻く状況がますます複雑化・多様化する中で、教員には単に教科指導や生徒指導を行う能力だけではなく、同僚教員や地域社会の関係者と連携・協働する中で学校教育上の諸課題を組織的で協働的に解決する能力も求められている。岩手大学教育学部では、小・中学校および特別支援学校の教員養成を中心として、地域における教員養成の拠点的功能を果たしていくことを使命としており、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解および豊かな人間性と社会性を備え、高い意欲と使命感を持って学校教育に取り組むことができる教員を養成する。また、併せて、小学校、中学校および特別支援学校のそれぞれにおける発達段階を見通して子どもを理解する能力および学校教育現場のいじめ・不登校・学級崩壊等の諸課題にも対応できる能力を養成する。

【目標達成のための計画】

この教員養成の目標を達成するために、大きく教養教育科目および専門教育科目で構成される系統的な教育課程を編成する。

教養教育科目は、総合的思考力を養うために幅広い教養を身に付けることを目的として、社会・文化・自然・環境など幅広い科目群から単位修得ができるようカリキュラムが組まれている。専門教育科目では、以下の5つの科目区分を設け、岩手県教育委員会の教員等育成指標なども踏まえ『理論と実践の融合』を目指した教育課程を編成する。

- (1) 教育および子どもに関する基礎的知識と技能の修得のための教職専門科目
- (2) 教科に関する専門的知識と技能の修得のための教科専門科目
- (3) 所属サブコース毎の専門的な知識と技能の修得のための所属専門科目
- (4) 幅広い知識と技能の修得に資するための選択科目
- (5) 卒業研究

この教育課程により、すべての学生に教育に関する理論的・実践的な力量を共通に修得させるとともに、所属サブコースおよび取得する教員免許状の種類に応じて、教科指導や生徒指導の力を養成する科目、得意分野の力を伸ばす科目を充実させ系統的に修学することで、確実な指導力を有する教員の養成を図る。

専門教育科目の教育課程における特徴を以下に示す。

理論的な学びと実践的な学びのつながりを重視し、双方の往還による相乗的な力量育成を目指す。そのために系統的に教育現場での実践的な体験を組み込み、理論的側面と教育現場における実践的側面をつなげながら、それぞれでの学びを自覚的に深めていくことができる系統的なカリキュラムを構成している。特に、教育現場での経験については、第一学年から第四学年までの全ての学年で実習系授業を編成している。この4年間の教職課程の学習成果を確認し、教職への意欲と自覚を促すことを目的として、在学期間全般にわたって「教職ポートフォリオ」を導入し

ている。

教員として共通に身に付けるべき基礎力に加えて、自らが得意とする専門分野の育成を図っている。とくに専門分野の教育では単に知識や技能を深めるだけでなく、ものの見方、課題分析力、論理的思考力やものごとを創造的にアプローチする能力も重視し、このような学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)の中に掲げられた能力を総合的に実現する場として、卒業研究が位置づけられている。教育の今日的課題に対応するためには、「学校安全学と防災教育」や「プログラミング基礎(ICT 活用を含む)」、「特別支援教育」を必修科目として配置している。

<理工学部>

【化学・生命理工学科】

- ・持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し科学技術分野における基礎学力ならびに理学的・工学的課題に積極的に挑戦できる専門的能力を有するとともに、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。
- ・「教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目」および「教科に関する科目」の履修により、教員として必要な以下の能力を修得することを目指す。

(教員としての素養)

1. 教員としての使命感、責任感、倫理観を身につけている
2. 一人一人の生徒と向き合う教育的愛情を持つ。
3. 豊かな人間性と社会人としての常識や教養を身につけている。
4. 様々な背景を持つ人々とのコミュニケーションをとり、相互理解を図りながら合意形成ができる。
5. 時代や社会の変化に応じて教員として資質を自ら学び、高めていくことができる。

(学習指導力)

6. 学習指導要領、教育課程に関する基礎・基本を身につけている。
7. 理科または工業に関わる専門知識及び実験技術を身につけている。
8. 指導方法、指導技術、評価方法など、授業に関する基礎・基本を身につけている。

(生徒指導力)

9. 生徒指導の重要性や生徒の自己指導能力の育成の意義を理解している。

(マネジメント力)

10. 関係者との連携・協働により、学校が組織として教育に取り組んでいることの重要性を理解している。

「教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目」について、1年次から3年次に「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談

等に関する科目」を、2年次以降に「教科の指導法に関する科目」を履修し、教員として必要な素養、指導力、学校運営能力を育成する。3年次後期以降には、教育実習、演習科目を通して、実践的な教育法や学校組織のマネジメント能力を養う。

「教科に関する科目」について、1年次において基礎的技法・基礎的技術及び幅広い基礎知識を修得し、2～3年次前期には、化学的及び生物学的な視点から専門知識及び実験技術を修得し、発展的知識を養う。3年次後期以降には、発展的な科目を履修し、各々の卒業研究に取り組み、各課題への解決方法を立案・計画・遂行し、その成果をプレゼンテーションできる能力を育成する。

【物理・材料理工学科】

- ・材料科学及び数理・物理学の基礎的素養、数理・物理コース、マテリアルコースの特徴ある専門教育、更には、地域社会における物理・材料理工学の使命・役割の学びを基盤として、高等学校教育に求められる十分な専門知識とそれに裏打ちされた授業実践力、地元地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。
- ・「教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目」および「教科に関する科目」の履修により、教員として必要な以下の能力を修得することを目指す。

(教員としての素養)

1. 教員としての使命感、責任感、倫理観を身につけている
2. 一人一人の生徒と向き合う教育的愛情を持つ。
3. 豊かな人間性と社会人としての常識や教養を身につけている。
4. 様々な背景を持つ人々とのコミュニケーションをとり、相互理解を図りながら合意形成ができる。
5. 時代や社会の変化に応じて教員として資質を自ら学び、高めていくことができる。

(学習指導力)

6. 学習指導要領、教育課程に関する基礎・基本を身につけている。
7. 理科または数学または工業に関わる専門知識及び実験技術を身につけている。
8. 指導方法、指導技術、評価方法など、授業に関する基礎・基本を身につけている。

(生徒指導力)

9. 生徒指導の重要性や生徒の自己指導能力の育成の意義を理解している。

(マネジメント力)

10. 関係者との連携・協働により、学校が組織として教育に取り組んでいることの重要性を理解している。

「教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目」について、1年次から3年次に「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談

等に関する科目」を、2年次以降に「教科の指導法に関する科目」を履修し、教員として必要な素養、指導力、学校運営能力を育成する。3年次後期以降には、教育実習、演習科目を通して、実践的な教育法や学校組織のマネジメント能力を養う。

「教科に関する科目」について、1年次において基礎的技法・基礎的技術及び幅広い基礎知識を修得し、2～3年次前期には、材料科学及び数理・物理学の視点から専門知識及び実験技術を修得し、発展的知識を養う。3年次後期以降には、発展的な科目を履修し、各々の卒業研究に取り組み、各課題への解決方法を立案・計画・遂行し、その成果をプレゼンテーションできる能力を育成する。

【システム創成工学科】

- ・ 安全・安心な循環型社会の実現に貢献するための豊かな教養と高い倫理観を持ち、工業分野の基礎的教養ならびに科学技術の課題に挑戦できる専門的能力を有するとともに、地元地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、実践的指導力を備えた教員の養成を目指す。
- ・ 「教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目」および「教科に関する科目」の履修により、教員として必要な以下の能力を修得することを目指す。

(教員としての素養)

1. 教員としての使命感、責任感、倫理観を身につけている
2. 一人一人の生徒と向き合う教育的愛情を持つ。
3. 豊かな人間性と社会人としての常識や教養を身につけている。
4. 様々な背景を持つ人々とのコミュニケーションをとり、相互理解を図りながら合意形成ができる。
5. 時代や社会の変化に応じて教員として資質を自ら学び、高めていくことができる。

(学習指導力)

6. 学習指導要領、教育課程に関する基礎・基本を身につけている。
7. 理科または数学または工業に関わる専門知識及び実験技術を身につけている。
8. 指導方法、指導技術、評価方法など、授業に関する基礎・基本を身につけている。

(生徒指導力)

9. 生徒指導の重要性や生徒の自己指導能力の育成の意義を理解している。

(マネジメント力)

10. 関係者との連携・協働により、学校が組織として教育に取り組んでいることの重要性を理解している。

「教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目」について、1年次から3年次に「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」を、2年次以降に「教科の指導法に関する科目」を履修し、教員として必要な素

養、指導力、学校運営能力を育成する。3年次後期以降には、教育実習、演習科目を通して、実践的な教育法や学校組織のマネジメント能力を養う。

「教科に関する科目」について、1年次において基礎的技法・基礎的技術及び幅広い基礎知識を修得し、2～3年次前期には、電気電子通信工学、情報システム工学、機械工学、社会基盤・環境工学の視点から専門知識及び実験技術を修得し、発展的知識を養う。3年次後期以降には、発展的な科目を履修し、各々の卒業研究に取り組み、各課題への解決方法を立案・計画・遂行し、その成果をプレゼンテーションできる能力を育成する。

<農学部>

【植物生命科学科】

科学的な基礎的、発展・応用的ならびに課題認識と解決に関わる専門知識を基にした知識の基盤形成、知識に基づく応用能力ならびにそれらに基づく問題解決に関わる実践的指導力を有し、理科もしくは農業の重要性と役割を具体的かつ実践的に伝えられる教員を養成する。

1年次には教養教育科目により幅広い視野を形成するとともに1～2年次にかけて専門基礎科目を中心とした専門的な基礎知識を習得し、2～3年次に発展的、応用的な専門的科学的知識習得ならびに課題解決能力の習得へと展開する。3年次後期からは卒業研究を通じて課題を立案し、解決方法を計画・実施するとともに、その成果を取りまとめ発表を行えるプレゼンテーション能力と文章作成能力を育成する。4年次には教育法を学び、教育実習などを経て、課題とその解決策を提示するとともに学校現場における実践教育および教育的指導力を養成する。これら年次進行プロセスに適合するよう、各年次に段階的に農学系・理学系科目をバランスよく配したカリキュラム編成を行っている。これにより幅広い現代農学の知識と技術、及び、最新の生命科学に関する高度な理解を兼ね備えた教員養成を行う。

【応用生物化学科】

化学および生物学の複合的視点から物事を捉えることができ、生物や化学に関する基礎から応用までの幅広い知識や実験技術を兼ね備え、最先端の生命科学や諸課題への合理的な解決と、持続的かつ安定的な農業の展開に生かすことができる教員を養成する。

1年次において基礎的技法・基礎的技術及び幅広い基礎知識を修得し、2～3年次前期には、生物学及び化学的な視点から専門知識及び実験技術を修得し、発展的知識を養う。3年次後期以降には、発展的な科目を履修し、各々の卒業研究に取り組み、各課題への解決方法を立案・計画・遂行し、その成果をプレゼンテーションできる能力を育成する。4年次では、教育実習を経て自己課題とその解決策を整理し、今後の授業展開の材料とし、学習課題を総括できる能力を修得する。

【森林科学科】

自然体験の不足や、農林業の生産現場を身近なものとして感じられていない生徒達に対し、体

験を通して得た自らの言葉で、森林の健全性を保つ事が地球環境問題を初めとする諸問題の解決を目指す上でどれだけ重要なのか、教え伝えることができること、また、林業やそれに関連する職業への就業を目指す生徒達に対し、世界や日本の森林・林業が直面している課題や、持続可能な森林施業について、その意義や具体的な技術を教えることのできる教員の養成を目的とする。

上記の目的を達成するため、1、2年次に教養教育科目と専門基礎科目を配置し、2年次以降は、附属演習林を活用した実践的な学習を通して、環境教育についても学ぶ。さらに、林業技術を習得する科目に加え、持続可能な林業経営や認証制度、また地域と観光をつなぐアイデアや法制度について学び、幅広い視点から課題解決能力を身につける。

【食料生産環境学科】

工学技術の基礎となる理科全般の素養と農学における実践的応用力を身につけ、農業と水産業の核心部分である農村と農業基盤の整備と発展的更新、食料生産システムの高度化や食産業の成長、広範な海洋生物の生態と有益な利用方法および水産業の成長を理解し、グローバルな視点から安定的な食料需給や地域産業の持続性ある創生に意欲を持って行動できる生徒を育てることができる教員を養成する。

1、2年次に教養教育科目と専門基礎科目を配置し、2年次以降に、専門科目を配置し、基礎学力を身につける。また、2、3年次に科学英語とインターンシップを配置し、グローバル化や学生の問題解決能力の向上に対応する。さらに、2年次にPBL(課題解決型)科目を配置し、自ら課題を解決する能力を身につける。3年次以降に、専門性や実習系科目により、体験的学習を通じたコミュニケーション能力の向上と地域課題の解決能力を身につける。

【動物科学科】

動物に関する知識及び技術を教授し、次世代の理系教育に資する人材の育成を教員養成に対する理念とする。最先端の生物科学をわかりやすく伝え、生徒に理系分野を将来の魅力的選択肢として示し、動物生産科学を正しく理解し、日本の食料生産を支える意欲を持った生徒を育てることのできる教員を養成する。

1年次には、基礎的技法・基礎的技術及び幅広い基礎知識を包括的に学び、幅広い視野を形成する。2～3年次前期には、専門分野の基礎科目を学修し理科、農業それぞれの基礎学力とともに、専門性を身につける。3年次後期以降には、発展的な科目を履修し、各々の卒業研究に取り組み、各課題への解決方法を立案・計画・遂行し、その成果をプレゼンテーションできる能力を育成する。4年次では、教育実習を経て学校現場における実践的指導力を養成する。

＜大学院＞

＜総合科学研究科＞

【地域創生専攻】

社会基盤の整備・維持管理、多発する自然災害に対する防災・減災、我々を取り巻く環境の適切な評価と浄化および維持保全に関する幅広い知識と深い洞察力を身につけ、地域特有の自然環境や社会条件に配慮した社会基盤の構築を専門的な視点で教育に取り組むことのできる人材を育成する。

研究科共通科目の総合科学科目では、震災復興・地域創生、イノベーション、グローバルをキーワードとした科目群を設置して、自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとをとらえることができる能力を、また、技法知科目では国際性等を身に付けさせる。専攻共通科目では、大学を飛び出して市民や地域、海外などの多様な情報や刺激を、学生自らが積極的に関わり発信しながら学ぶ科目などを開講する。コース共通科目では地域づくりに活用できる手法や技術の基礎を総合的に修得することを目的とする「地域防災特論」、安全・安心な社会及び社会基盤を構築し、さらに、人と環境に優しく持続的発展が可能な社会を造るための考え方や手法を理解する「社会基盤・環境工学特論」を開講する。例えば、プログラム科目では建設工学、都市計画学および環境工学の3つの工学系専門分野の講義科目をバランスよく配置し、さらに、特別研究では構造工学や地盤工学、都市計画学、環境浄化工学など、それぞれの専門分野の工学的手法に基づいた実験、論文作成を行う。これにより、幅広い知識と高い実践能力を有する教員を養成する。

【総合文化学専攻】

自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとを捉えるための能力（俯瞰的視野）と、他分野の専門家と協働し新たな価値を創造する能力を身につけさせるとともに、社会の様々な課題解決に貢献する教員を育成する。

研究科共通科目で、学士課程段階で形成された個別的な専門的基礎の上に立って、自然科学・人文科学・社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとを捉えるための能力（俯瞰的視野）と、他分野の専門家と協働し新たな価値を創造する能力を修得させるとともに、「文化マネジメント力」の基礎的能力と実践力を養成する科目を置く。また、修士レベルの専門性を確保するとともに①学生の学修目標に応じた履修科目の組み合わせができる、②履修科目を厳密に固定化しないことで、社会のニーズの変化に柔軟に対応できるカリキュラムが可能になる、③担当教員数が今後制約される可能性がある中で学生の学びの場を保障できる、等の利点から、5つの教育プログラムを設定する。

＜中学校・高等学校国語＞

日本語・日本文化を深く理解し指導的な立場で世界へ発信でき、それを次世代につなげる教員を養成する。

国語教員養成の中心となる「日本文化理解プログラム」では、日本語・日本文化について広く学

ぶことが出来るよう、日本の言語・文学・文化・歴史・思想・書道等についての多様な特論科目を設置し、また、日本の言語・文学・文化・歴史・思想等についてより深い学修をするための展開科目(特別演習科目)を配置することで、教員養成理念の達成を目指す。

《中学校社会・高等学校地理歴史》

日本と世界の歴史を深く理解し、地域の文化遺産と保存の意義を知って地域文化の活性化を担い、また、次世代につなげることができる教員を養成する。

地理・歴史分野の教員養成の中心となる「地域文化リノベーションプログラム」では、文化遺産の価値を理解し、その保存・活用や発信に関わる、歴史や地理・言語・文化に関する科目を設ける。そして展開科目ではそれぞれの学問領域の専門深化を目的とした科目を配置することで、教員養成理念の達成を目指す。

《中学校社会・高等学校公民》

現代社会において文化間の軋轢・対立として顕在化する諸問題を、文化の特質そのものの原理的・理論的な理解に基づいて分析することができ、文化間のコミュニケーションと共生、文化の継承と発展とに寄与する活動に社会の様々な場所で積極的に関わり、その知恵を次世代につなげることのできる教員を養成する。

公民分野の教員養成の中心となる「文化多様性理解プログラム」では、哲学的・思想的観点から文化事象の原理的な理解を深める科目、多文化主義の政治や教育の実践例を学ぶ科目、異文化コミュニケーション、文化・集団間において生じる軋轢・対立等の課題、これら諸課題に対する共生倫理学のアプローチをそれぞれ主題とする科目を配置する。そして、各主題をより具体的・実践的に学び、専門知識と能力を深める演習科目を展開して、上記教員養成の目標達成を目指す。

《中学校・高等学校音楽、中学校・高等学校美術》

地域に根ざした芸術をグローバルに発信でき、地域と世界の架け橋となる「芸術の担い手」として、また、それを次世代につなげる教員を養成する。

芸術分野の教員養成の中心となる「アート発信プログラム」では、各芸術分野についての専門知識と技術・実践力を修得するための科目を配置するとともに、地域の芸術活動を支援する際の方法論を学ぶ科目を配置する。また、より視野の広いアート感覚を養うために、他プログラムの科目も教育課程に配置し、教員養成理念の達成を目指す。

《中学校・高校英語》

外国語の運用能力を高め、欧米の文化を多角的・総合的に理解する「グローバル」な、また、それを次世代につなげることができる教員を養成する。

英語教員養成の中心となる「グローバル文化発信プログラム」では、学生が英語等各言語で地

域と日本の文化を紹介・発信するための実践的活動を行う科目を置く。また、英語圏等で課題解決型の海外研修を行う科目、英語を使って自らの意見を主体的に発信する技能を養成する科目を置く。

無論、英語等各言語について深く学ぶ科目群、複数の言語圏の文学・文化を幅広く学ぶ科目群、それぞれの学問領域の専門深化を目的とした演習形式の科目群を置き、教員養成理念の達成を目指す。

【理工学専攻】

総合科学研究科理工学専攻の教職課程は、深い教養と高い専門性を基盤の上に、各学校現場の課題と期待に応える教員の養成を目指している。

数学・理科・工業、それぞれの教科の特徴に応じた講義・実習を配置することを通して教員養成理念の達成を目指す。

《専修免(数学)》

持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、グローバルな問題の解決や科学技術分野におけるイノベーション創出・発展に貢献する人材を育み、代数学・幾何学・解析学・確率統計学・コンピュータなど数学に関する基礎学力の習得ならびに理学的・工学的課題に積極的に挑戦する意欲を持つ生徒たちの期待に応えうる専門的能力を有するとともに、自らも学び探求する姿勢を持ち、教育の情報化を含む時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を生涯にわたって高め、企業や関係機関との関係を積極的に築いて連絡・調整を行い、進路選択に的確に対応しつつ、生徒の実態に応じたライフデザインをサポートしながら教育活動を展開し、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

論理的な切り口から俯瞰的に各分野をとらえ、代数学・幾何学・解析学・確率統計学・コンピュータおよびこれらを結ぶ応用数理に関して幅広く学ぶことができる講義を配置し、教員養成理念の達成を目指す。

《専修免(理科)》

持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、グローバルな問題の解決や科学技術分野におけるイノベーション創出・発展に貢献する人材を育み、化学・生物・物理・地学・コンピュータ活用に関する基礎学力の習得ならびに理学的・工学的課題に積極的に挑戦する意欲を持つ生徒たちの期待に応えうる専門的能力を有するとともに、自らも学び探求する姿勢を持ち、教育の情報化を含む時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を生涯にわたって高め、企業や関係機関との関係を積極的に築いて連絡・調整を行い、進路選択に的確に対応しつつ、生徒の実態に応じたライフデザインをサポートしながら教育活動を

展開し、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

科学的な切り口から俯瞰的に各現象をとらえ、様々な自然現象を対象とし、物理学的、化学的、生物学的、科学的手法を用いて取り組むことができる講義・実験を配置し、教員養成理念の達成を目指す。

《専修免(工業)》

持続可能な社会の実現に貢献するための豊かな教養と倫理性を兼備し、グローバルな問題の解決や科学技術分野におけるイノベーション創出・発展に貢献する人材を育み、機械・電気・材料・土木・化学・情報・物理・生命科学など工学産業に関わる基礎学力の習得ならびに工学的・理学的課題に積極的に挑戦する意欲を持つ生徒たちの期待に応えうる専門的能力を有するとともに、自らも学び探求する姿勢を持ち、教育の情報化を含む時代や社会の変化、キャリア・ライフステージに応じて求められる資質を生涯にわたって高め、企業や関係機関との関係を積極的に築いて連絡・調整を行い、職業指導を含む進路選択に的確に対応しつつ、生徒の実態に応じたライフデザインをサポートしながら教育活動を展開し、地域を含む学校現場の課題に応える教育的意欲、高等学校の教育に求められる専門知識ならびに実践的な指導力を備えた教員の養成を目指す。

工学的な切り口から俯瞰的に各現象をとらえ、工学の応用対象となる様々な社会現象・自然現象を対象とし、それぞれ対象に適した論理的、科学的手法を用いて取り組むことができる講義・実験を配置し、教員養成理念の達成を目指す。

【農学専攻】

農学・生命科学、特に寒冷地農学の教育研究の深化により農学分野においてイノベーションを興すために必要な素養と技術を身に付け、グローバルからローカルまでの視点で理科系ならびに農学系科目の教育に取り組むことのできる人材を育成する。

震災復興・地域創生、イノベーション、グローバルをキーワードとした研究科共通科目を設置して自然科学、人文科学、社会科学それぞれの切り口から俯瞰的にものごとをとらえることができる能力を修得させる。また、技法知科目では国際性を身に付けさせる。専攻共通科目では農学に関する最新の研究成果と将来の動向、農業経済、農業経営の視点からの講義や文献調査、実験計画法、プレゼンテーションに関する演習を実施する。それぞれのコース科目では理科系および農業系科目をバランスよく配置している。さらに、特別研究では植物や動物、微生物、生物資源などを対象とし、生物学的、化学的ならびに物理的な手法に基づいて修士研究の実験、論文作成などを実施する。これにより、幅広い知識と高い実践能力を有する教員を養成する。

《理科》

自然現象に対して高い関心を持ち、目的意識をもって観察・実験に取り組み、科学的に探究す

る能力を育てるとともに、自然の事物・現象についての本質的な理解を深め、科学的な自然観を育成する。

科学的な切り口から俯瞰的に各現象をとらえ、植物や動物、微生物などの生物を対象とし、生物学的、化学的ならびに物理的手法を用いて取り組むことができる講義・実験を配置し、教員養成の目標の達成を目指す。

〈農業〉

農業の社会的な意義や役割を理解し、農業に関する諸課題を主体的に解決し、持続的及び安定的な農業と社会の発展を図る能力を育成する。

農学に関する最新の研究成果と将来の動向、農業経済、農業経営の観点からの講義、演習等を配置し、教員養成の目標の達成を目指す。

〈教育学研究科〉

〈教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)〉

【教員の養成の目標】

子どもと学校を取り巻く状況がますます複雑化・多様化する中で、教員には単に教科指導や生徒指導を遂行する能力だけではなく、同僚教員や地域社会の関係者と連携・協働する中で学校教育上の諸課題を組織的で協働的に解決する能力も求められている。このような状況の中で、学校の教育活動の中核となる30代から40代の主任クラスの教員(ミドルリーダー)の役割が極めて重要となっている。加えて、学校の先頭に立って学校の教育力の向上のためにリーダーシップを発揮できる専門的力量を備えた管理職(校長、副校長)の役割もますます重要になっている。

そこで、本学教職大学院は、岩手県をはじめとする地域の学校教育全体の活性化に貢献するため、学校教育に関する「理論と実践の融合」の理想を掲げ、教職としての高度の専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目標とする。

具体的には、これからの学校教育をリードする専門的力量を備えた管理職及びミドルリーダーを養成するとともに、新しい学校づくりの有力な担い手となる新人教員を養成する。これらの教員は、スクールリーダー及びその候補者といえ、以下では単にスクールリーダーと記す。

【目標達成のための計画】

この教員養成の目標を達成するため、学校全体への総合的な理解を有し、自分の専門の教科や学校種を超えた俯瞰的な視点から包括的な指導力を発揮できる教員の育成を意図して、①専攻共通科目、②選択科目、③実習科目、④リフレクション科目、⑤教育実践研究科目の5つの科目区分を設け、岩手県教育委員会からの要請に応え、「理論と実践の融合」を目指した教育課程を編成し、以下のとおり、全ての大学院生に4つの専門的力量を共通に修得させるとともに、専門

性をより高め得意分野を形成するためのプログラム制によりカリキュラムを実施する。

<スクールリーダーに求められる4つの専門的力量的の修得>

これからの学校教育を牽引するスクールリーダーを養成するため、岩手大学教職大学院では、必修科目である「専攻共通科目」と充実した「実習」、「教育実践リフレクション」及び「教育実践研究」を通して、全ての大学院生に「4つの専門的力量的」を共通に修得させる。

「4つの専門的力量的」とは、以下のとおり。

- ①学校改革力 : 学校の課題を的確に把握し、学校を改善・改革するための専門的力量的
- ②学習指導力 : 確かな学力形成を可能にする授業実践のための専門的力量的
- ③子ども支援力 : 的確な子ども理解と、適切な子ども支援を行うための専門的力量的
- ④特別支援教育力 : 特別支援教育に関する専門的力量的

<専門性を深化させるプログラム制の採用>

上記4つの専門的力量的に関し、子ども支援力を共通に備える基盤的力量的に位置付け、他の3つの専門的力量的(学校改革力、学習指導力、特別支援教育力)のいずれかをさらに深化させ、より専門性を高度化させることができるよう、①学校マネジメント力開発プログラム、②授業力開発プログラム、③特別支援教育力開発プログラムの3つの「プログラム制」を導入する。また、教職大学院の入学後に、院生のライフステージや学修ニーズに応じて、主として履修するプログラムを選択できるようにする。

各プログラムで育成する人材は以下のとおり。

①学校マネジメント力開発プログラム

現職院生だけを対象とし、学校経営と組織マネジメントに関する高度な専門的力量的の修得により、特色ある学校づくりをリードする人材(校長、副校長、主幹教諭及び指導主事等)を育成する。

②授業力開発プログラム

教科等の指導を通して子どもたちに確かな学力形成を保障することができ、同時に地域における教科等の研修リーダーとしての役割も果たすことができる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

③特別支援教育力開発プログラム

特別支援学校及び通常学校における特別支援教育を推進できる高度な専門的力量的を備えた人材を育成する。

<充実した教員組織>

教員養成の目標を実現するためには、それに見合う充実した教員組織が必要である。そこで、岩手大学教職大学院は、教職大学院設置基準の必置専任教員に加え、主として3つのプログラムの開設科目と実習における学生指導を専任教員と協働的に担う兼任教員を配置する。

専任教員および兼任教員の配置に当たっては、岩手大学教職大学院が教職としての高度な専門的・実践的力量を備えた高度専門職業人としての教員を養成することを目的にすえていることから、専門的にも人間的にも「教師教育家」(Teacher Educator)としての十分な資質能力のある教員を選任することを心がける。また、実務家教員の人選にあたっては、岩手県教育委員会等と緊密に連携・協力して選考を行うこととし、実務家教員を含む専任教員の資格審査基準を定める。

具体的な教員配置においては、3つのプログラム制を想定していることから、それぞれのプログラムを主として担当する専任教員とその専門分野を十分に勘案して、十分な教育効果を上げることができるように最大限の配慮を行う。

また、本研究科において所定の課程を修了した者に対し、以下の知識及び能力を修得したとして、教職修士(専門職)の学位を授与する

1. 学校教育(学校経営、学習指導、及び特別支援教育等)の質的改善に貢献するために必要な基礎的な知識を修得している。
2. 教育実践における現代的諸課題と個々の児童生徒の教育的ニーズに応えうる高度な専門的知識と実践的指導力を修得している。
3. 学校経営、学習指導、及び特別支援教育等に関する高度な実践的指導力の基盤となる能力を修得している。
4. 学校現場等での実習で得られる実践知と講義等で得られる理論知を融合させて、教育課題の解決に資するための専門性に基づいた問題解決能力を修得している。
5. 教育実践に係る研究成果をまとめ、広く発信できる能力を修得している。
6. 修得したことを活かして学校現場において実践研究のリーダーシップをとり、地域の教育に貢献しようとする態度を身に付けている。